

～きのくに学び月間～

和歌山県では11月を「きのくに学び月間」として県民の皆様へ「学び」や「教育」の大切さを考え、身近なものにしてもらおうと取り組んでいます。本校では11月5日から9日まで「学校開放週間」と位置づけ、授業公開や部活動公開、美術、書道、華道部の作品展示、図書館主催の文化講演会等多くの取組を行いました。

SSH課題研究中間発表会ではプロジェクターを使って研究の途中経過と今後の課題を発表し、生徒同士による活発な意見交換が行われました。この取組が12月16日に県民文化会館で行われる和歌山県高等学校生徒科学研究発表会での代表発表とポスターセッションにつながっていきます。生徒たちの日頃の研究成果の発表の場として取り組んでいますので、一般の方々もぜひ見学していただきたいと思ひます。



「津波防災の日」 防災避難訓練実施

7日(木)には地震と津波を想定した防災避難訓練を実施しました。訓練では地震の揺れが収まるまで教室の中で机の下にシェイクアウト、揺れが収まるとただちに津波に備えて校舎の3階に避難するという設定で実施しました。一人一人が「命を守る行動」に真摯に向き合う様子が感じ取られる場面もありました。今後も「本気の意識」が求められています。

その後、体育館に於いて、阪神淡路大震災を神戸の病院で看護師として体験された幾島先生による「災害に備えて私達にできること」と題した講演をしていただきました。今後このような講演や研修から、生徒には災害時に主体的に行動するための知識、判断力を身につけ「自助・共助・公助」を実践できる若者であってほしいと思ひます。



共に学ぶ～SSH中高合同ゼミ～

8日(金)の4限、5限に、環境科学科1年生と向陽中学3年生が、和歌山大学、近畿大学、県立自然博物館から講師を招いて、共に同じ教室で貴重な大学レベルの講義を受講しました。普段の授業とは一味違った趣向で、自然科学についての興味、関心を高めていきました。「共に進化する社会と情報技術を学ぶ」、「機械学習入門」、「PCR法を用いて動物の性を判定しよう」、「慢性腎臓病治療における人工臓器と臨床工学技士の役割」、「種子と実の不思議」の5講座が開講されました。どの講座も、大学の先生方の普段の研究を通して中・高生のために科学的考察法、手法を学ぶことができました。



大学での学び ～大学ゼミナール開催～

6日(水)4・5限、高2を対象に大学ゼミナールを開催しました。大学ゼミナールは、近畿圏の国公立9大学から9名の先生方を招き、専門分野での講義をしていただきました。講義は「ゲノム情報を活用した食料原料の生産」「昆虫先端研究推進拠点生物資源フィールド科学研究」「物理学 高温超伝導」な

★12月の主な予定★

◎ 第4回定期考査	11/28日(木)～4日(木)	◎ 週例テスト国語	18日(水)
◎ 高2クラスマッチ	9日(月)	◎ 三者懇談	20日(金)～25日(木)
◎ 高1クラスマッチ	12日(木)	◎ アゼンブリー	25日(木)
◎ 土曜講座	14日(土)	◎ 冬季休業開始	26日(木)
		◎ センター演習(3年)	26日(木)27日(金)